

AMR ワンヘルス東京会議 2024 会議概要（仮訳）

（※仮訳であるため、原文との相違がある場合には原文を優先する。）

2024 年 2 月 28 日

2024 年 2 月 28 日、厚生労働省は、国連食糧農業機関（FAO）、国連環境計画（UNEP）、世界保健機関（WHO）の東南アジア地域事務局（SEARO）と西太平洋地域事務局（WPRO）、世界動物保健機関（WOAH）の支援を受けて、AMR ワンヘルス東京会議をオンライン開催した。本会議には、各国の保健省、農水省、環境省の局長級職員、研究者、医療関係者、関連機関の AMR 担当者など、34 のアジア太平洋地域を中心とした国と国際機関から 184 人の参加者が参加し、それぞれの専門知識や経験を共有し、実り多い議論が行われた。本会議は、2016 年 4 月に開催されたアジア AMR 東京閣僚会議で発足した、AMR に関するアジア太平洋ワンヘルス・イニシアチブ（ASPIRE*）の進捗状況を確認するために開催されている。

*ASPIRE は、アジア太平洋地域における AMR がもたらす課題を共有し、対処することを目的とし、以下の 4 つの優先課題を地域の枠組みで実現するためのロードマップを策定する。

1) サーベイランスシステムと検査機関ネットワーク、2) 医療マネジメント、3) 抗微生物薬のアクセスと規制、4) 研究開発

【本年の会議の目的】

- ・アジア太平洋地域でのワンヘルス・アプローチに基づく AMR ナショナルアクションプランの実施、更新、サーベイランスの進捗状況と評価を共有する。
- ・アジア太平洋地域の国々における AMR 対策を加速するための利用可能なリソースを紹介する。
- ・4 つのワーキンググループの 2023 年の進捗状況を共有・議論し、2024 年の、特に国連ハイレベル会合を見据えた活動を計画する。

【議題】

- ・開会セッション：厚生労働省、農林水産省、環境省、WHO からのスピーチ
- ・セッション 1：ワンヘルス・アプローチに基づく AMR ナショナルアクションプランの進捗状況（フィジー、インドネシア、ラオス）
- ・セッション 2：AMR 対策のためのグローバル及び地域のリソースの紹介（国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター（日本）、国立国際医療研究センター AMR 臨床リファレンスセンター（日本）、国立保健院（韓国）、メルボルン大学（オーストラリア）、Fleming Fund、TATFAR、サウジアラビア）
- ・セッション 3：ワンヘルス・アプローチに基づく AMR に関する最新情報（FAO、UNEP、WOAH）
- ・セッション 4：ワーキンググループでの議論とその内容についてのプレゼンテーション
 - WG1：サーベイランスシステムと検査機関ネットワーク（議長：日本）
 - WG2：医療マネジメント（議長：日本）
 - WG3：抗微生物薬のアクセスと規制（議長：WPRO、日本）
 - WG4：研究開発（議長：タイ、シンガポール）

- ・閉会セッション：厚生労働省、AMR に関するグローバルリーダーズグループ（GLG）からのスピーチ

【成果】

1. ワンヘルス・アプローチに基づく AMR ナショナルアクションプランの進捗状況

フィジー、インドネシア、ラオスは、各国の AMR 国家行動計画の進捗状況と課題を発表した。

2. AMR 対策のためのグローバル/地域的リソースの紹介

- ・国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター（日本）（AMR のサーベイランス及び研究に係る WHO-CC (JPN-97)）は、ASIARS-Net の実装、三輪車サーベイランスの技術支援、WPRO の AMR アウトブレイクガイダンスに基づく発生時対応の技術支援の 3 つの活動を紹介した。
- ・国立国際医療研究センター AMR 臨床リファレンスセンター（日本）（AMR の予防、準備、対応に係る WHO-CC (JPN-98)）は、サーベイランス（J-SIPHE）、抗微生物薬の適正使用、国民意識の向上に向けた活動を紹介した。
- ・国立保健院（韓国）（AMR のリファレンス及びワンヘルスの研究に係る WHO-CC (KOR-110)）は、リソースの少ない国へのラボでのサーベイランス能力を強化するための技術支援、ラボの外部精度管理プログラムへの技術支援、WHO や他国との AMR に係る共同研究といった取組を紹介した。
- ・メルボルン大学（オーストラリア）（AMR に係る WHO-CC (AUS-150)）は、WHO や諸外国の AMR の予防、モニタリング及び対応を強化する取組を支援するという総合的な活動テーマを紹介した。
- ・Fleming Fund は、AMR のモニタリングに対して最も投資を行い、低・中所得国におけるデータを増加させるための活動を紹介した。また、国、地域及び世界的なレベルで AMR に関連する投資に関する情報のマッピングや共有を行うといった協力を通じて影響を増大させる幅広い機会について論じた。
- ・TATFAR は、抗微生物薬のヒト及び動物領域での適正使用、AMR のサーベイランスと予防、抗微生物薬、診断法、代替手段の金銭的なインセンティブ、アクセス、研究開発を進めるための戦略、意識の向上と情報の普及のための横断的なアクションという 4 つの主要分野を通じた AMR に対処するための取組を調整することを目指す業務計画を紹介した。
- ・サウジアラビアは、2024 年 11 月にリヤドで開催される第 4 回ハイレベル閣僚級会合について、サウジアラビアは、G7、G20、国連ハイレベル会合での議論を取りまとめ、目標設定を促し、ワンヘルス・アプローチに基づく AMR 対策の共通課題の解決に向けて取り組むことが述べられた。

3. ワンヘルス・アプローチを通じた AMR の最新情報

- ・FAO は、政策支援、行動変容、エビデンスに基づく啓発、および抗微生物薬の使用量の削減等の、アジア太平洋地域における AMR 対策を説明した。
- ・UNEP は、AMR と気候変動、生物多様性の喪失、汚染といった他の地球規模の危機との関連性についてのメッセージを発信した。
- ・WOAH は、AMR と AMU に関する最新情報を提供した。WOAH は、動物領域における最新のデータを含む、第 5 版の年次 AMU レポートを公表した。

4. ワーキンググループセッション

- ・ **WG1** は、AMR サーベイランスにおける協力とキャパシティの向上を目的としている。WG1 では、ASPIRE プログラムの3年目を迎える、三輪車サーベイランスと ASIARS-Net の実装について議論がなされた。サンプル収集の拡大と WHO GLASS へのデータ提出に ASIARS-Net を利用することについての提案もなされた。また、興味がある国に向けて連絡先が提供された。
- ・ **WG2** の議論においては、医療現場における AMR 発生のリスク評価の重要性が強調された。また、文化やリソースの違いにより、異なる地域の病院には異なる方法論が必要とされる可能性があるが、共通理解を促進するために、ワークショップにおいて様々な職種の医療従事者を巻き込むことが提案された。リスク評価の方法を世界的に普及させ、アウトブレイク時の調査において咎めない文化を形成することの重要性が訴えられ、アウトブレイクのリスク評価を促進する国際的な支援も表明された。
- ・ **WG3** では、3つのプレゼンテーションと議論がなされた。まず、処方されていない抗微生物薬についての議論があり、その世界的なまん延と AMR への潜在的な関連が強調された。この問題に対処するために、地域の薬局を活用することが重要であることが示唆された。次に、シンガポールの包括的な抗微生物薬適正使用プログラムについて、テクノロジーを積極的に活用し、政策や臨床での実践に繋がっていることが紹介された。最後に、日本で新設された動物分野 AMR センター、特にその品質保証や教育における役割が紹介された。AMR と AMU におけるヒト、動物、環境の関連を解析するため、ゲノムデータを取り入れたワンヘルスのサーベイランスについて、重要な方向性として述べられた。
- ・ **WG4** では、CARB-X、GARDP、Global AMR R&D Hub からプレゼンテーションが行われた。CARB-X と GARDP は、AMR に係る製品の研究開発への拠出に焦点を当てており、中でも CARB-X は開発の中間段階に重点を置き、GARDP はプロセス全体をカバーしている。Global AMR R&D Hub は、ワンヘルス全体で AMR の研究開発や施策を向上させるためのエビデンスを提供している。いずれの団体も、アジア太平洋地域の研究者や国々との情報共有や更なる連携の機会を求めている。

5. 開会セッションと閉会セッション

- ・ **WHO と AMR に関するグローバルリーダーズグループ**は、国連ハイレベル会合の重要性を強調し、AMR に関する現在進行形の諸課題に取り組むための具体的なアクションを起こす必要性について述べた。また、国際社会におけるアジア太平洋地域の役割の重要性が改めて述べられた。
- ・ **日本政府**は、ASPIRE の枠組みにおいて継続的な支援を行うことを表明した。